

支え合いの社会

坂井市立丸岡南中学校 3年 鈴木 啓友

僕には、先天性的心臓病を持つ妹がいます。妹は、生まれたときから心臓に問題があり、これまで何度も大きな手術を受けました。小さいころ、妹はよく入院していました。そのたびに、両親は病院に付き添い、僕たち家族の生活は大きな影響を受けました。僕はその度に妹を心配し、何もできない自分に対してもどかしさを感じていました。しかし、時間が経って、妹が元気の過ごせるようになった理由の一つに、税金が関わっていたことに気付きました。

妹の治療にかかる医療費や入院費は、家族にとって大きな負担となりましたが、日本の医療制度には、税金で支えられた「国民皆保険制度」があり、このおかげで妹は安心して治療を受けることができました。特に、妹が小さいころに何度も手術を受ける必要があったとき、その手術費のほとんどは税金によって軽減され、家族は非常に助かったそうです。もし、この制度がなければ、高額な医療費を支払うことができず、妹は十分な治療を受けることができなかつたかもしれません。

さらに、僕が中学校でバドミントン部に所属していることも、税金のおかげで成り立っている部分があることが分かりました。部活の練習場所には、学校の体育館を使っています。その体育館や設備、さらに指導してくださる先生方の給与も税金でまかなわれています。税金があるからこそ、僕たちは練習をする場所を確保し、部活動を続けることができるのです。バドミントンを始めてから、仲間と一緒に練習し、試合で勝つことを目指して努力することが楽しくなりました。学校の体育館で心置きなく練習できることが、当たり前だと思っていたが、それは実は税金が支えてくれているおかげだと気付きました。

公共の施設があるおかげで、安心して学校生活を送ることができ、毎日自分の学びやスポーツに集中できる環境が整っていることが分かりました。

僕はこれまで税金について深く考えることはほとんどありませんでしたが、妹の治療のことや、バドミントン部での活動を通じて、「税金は僕たちを支えているものなんだ」と実感するようになりました。税金というと、何となく「お金を取りられる」といったネガティブな印象を持ってしまいますが、実際には僕たちの生活を支えるために必要不可欠な存在だということが分かりました。

将来、僕も大人になったときに税金を納める立場になります。そのときには、納めた税金がどのように社会を支え、未来を作るために使われているのかを理解し、責任をもって納税していきたいと思います。